

関東地方整備局同時発表

平成30年9月14日
道路局企画課

次世代型交通ターミナルの実現に向けて

～国道15号・品川駅西口駅前広場 事業計画「中間とりまとめ」～

国道15号・品川駅西口駅前広場については、昨年2月に道路上空を活用した未来型の駅前空間に関する整備方針をとりまとめ、有識者や民間事業協力者（京急電鉄・西武プロパティーズ・JR東日本）等とともに、事業計画の検討を進めてきたところです。

今般、次世代型交通ターミナルの整備を含む事業計画の「中間とりまとめ」を策定しましたので、お知らせいたします。

今後は、事業計画の深化を図るための検討会を設立し、産学官連携の下で今年度内のとりまとめに向けて検討を進めます。

中間とりまとめのポイント

※詳細については、関東地方整備局 東京国道事務所のHPでご確認ください。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/toukoku/shinagawa/index.htm>

1. 次世代の交通ターミナル

- ・常に最先端のモビリティへ接続が可能な、次世代型交通ターミナルを配置

2. 開発計画と連携した複合（交通・防災）ターミナル

- ・民間の開発計画と連携し、交通と防災を融合させた複合ターミナルを配置
- ・タクシー、ツアー系高速バス、次世代モビリティ等の乗り換えを可能に

3. 人々が集う賑わい広場

- ・センターコアの南側には人々が集い、憩う賑わい広場空間、商業施設を配置し、防災拠点としても活用

4. シンボリックなセンターコア

- ・利用者動線の交差部には連携の拠点となるセンターコアを配置
- ・交通結節の各空間を結ぶシンボリックな空間を形成

5. 利便性の高い路線バス乗降場

- ・分かりやすさ、運行効率に配慮し国道15号を挟み、対になるようバス停を配置

6. 北品川方面への溜まり空間

- ・周辺地域資源へアクセスする玄関口として機能する溜まり空間を配置

7. 新駅方面への歩行空間

- ・新駅方面への人・モビリティの往来が可能となるよう十分な通行空間を確保

<問い合わせ先>

道路局 企画課 竹林 秀基、渡部 正一

代表:03-5253-8111(内線37672、37682) 直通:03-5253-8593 FAX:03-5253-1618

品川駅周辺地域は、新たな国際交流拠点の形成に向けて、道、駅、まちが一体となった都市基盤の整備を進め、「世界の人々が集い交わる未来型の駅前空間」を目指します

◆次世代型交通ターミナル◆

- 最先端のモビリティ（自動運転等）の乗降場を集約した次世代モビリティターミナルを配置



◆開発計画と連携した複合（交通・防災）ターミナル◆

- 民間の開発計画と連携し、交通と防災を融合させた複合ターミナルを配置
- タクシー、ツアー系高速バス、次世代モビリティ等の乗り換えを可能に

<交通結節機能>

次世代モビリティ（例）



写真：トヨタ自動車・e-palette



写真：バスタ新宿

<防災機能>

輸送拠点



写真：H28熊本地震/救援物資の保管状況
(出典：(一財)消防防災科学センターホームページ (<http://www.isad.or.jp/>))

情報拠点



写真：東日本大震災時の対応
(出典：航空自衛隊ホームページ (<http://www.mod.go.jp/asdf/ohhtakine/saigai/index2.html>)を加工して作成)



横浜側から見た品川駅西口駅前広場の機能のイメージ

※将来必要となる機能をイメージしたものであり、整備内容を決定したものではありません

◆シンボリックなセンターコア◆

- 利用者動線の交差部には連携の拠点となるセンターコアを配置
- 交通結節の各空間を結ぶシンボリックな空間を形成



◆人々が集う賑わい広場◆

- センターコアの南側には、人々が集い、憩う賑わい広場空間を配置
- 有事の際には、防災拠点としても活用



写真：ソニーセンターベルリン(ドイツ・ベルリン)



写真：ショッピングモール(ルーマニア・ブカレスト)



写真：ツァイル通り(ドイツ・フランクフルト)

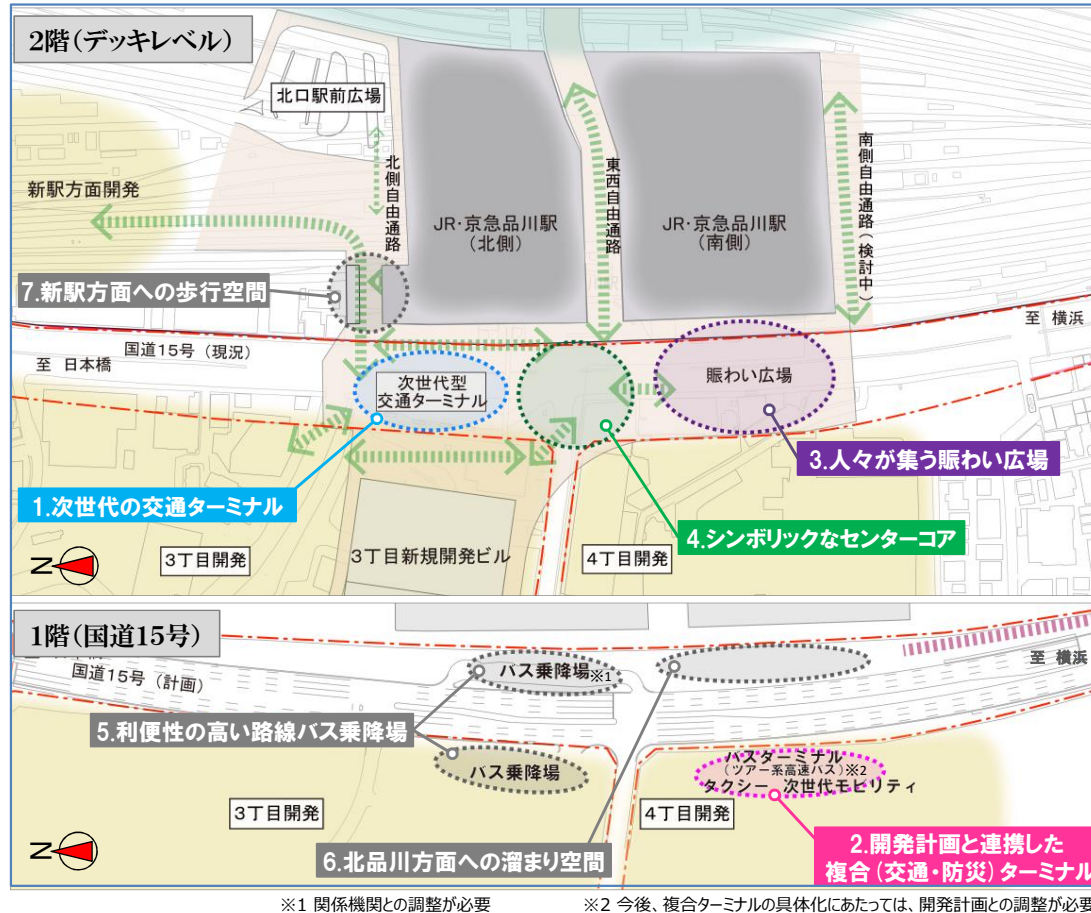
賑わい空間のイメージ

◆ゾーニング◆

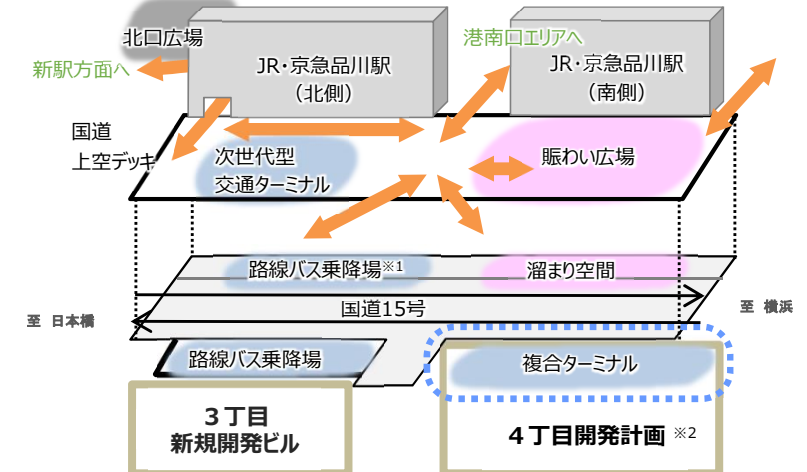
国際交流拠点、未来型の交通拠点として、新しい「日本の顔」となる象徴的な都市空間をカタチにします

◆道路上空の空間活用の考え方◆

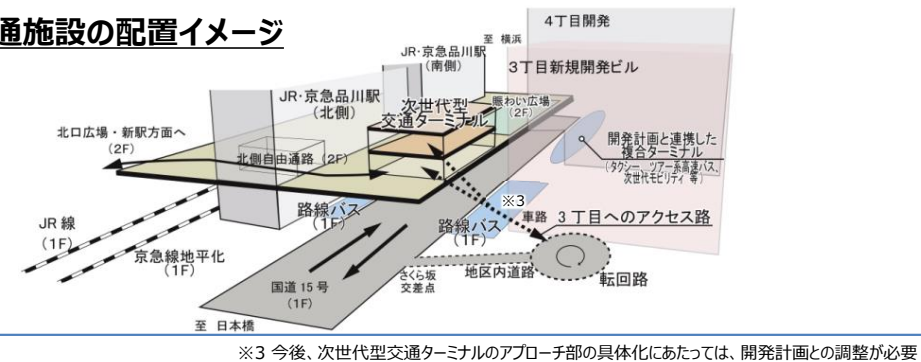
国道15号上空を立体的に活用することで、便利で賑わいある駅前空間を実現します



■交通機能の配置の考え方



■各交通施設の配置イメージ



◆コンセプト◆

1. 次世代の交通ターミナル

- 常に最先端のモビリティへ接続が可能な、次世代型交通ターミナルを配置

2. 開発計画と連携した複合(交通・防災)ターミナル

- 民間の開発計画と連携し、交通と防災を融合させた複合ターミナルを配置
- タクシー、ツアー系高速バス、次世代モビリティ等の乗り換えを可能に

3. 人々が集う賑わい広場

- センターコアの南側には人々が集い、憩う賑わい広場空間、3～4層(想定)の商業施設を配置
- 防災拠点としても活用

4. シンボリックなセンターコア

- 利用者動線の交差部には連携の拠点となるセンターコアを配置
- 交通結節の各空間を結ぶシンボリックな空間を形成

5. 利便性の高い路線バス乗降場

- 分りやすさ、運行効率性に配慮し国道15号を挟み対になるようバス停を配置

6. 北品川方面への溜まり空間

- 周辺地域資源へアクセスする玄関口として機能する溜まり空間を配置

7. 新駅方面への歩行空間

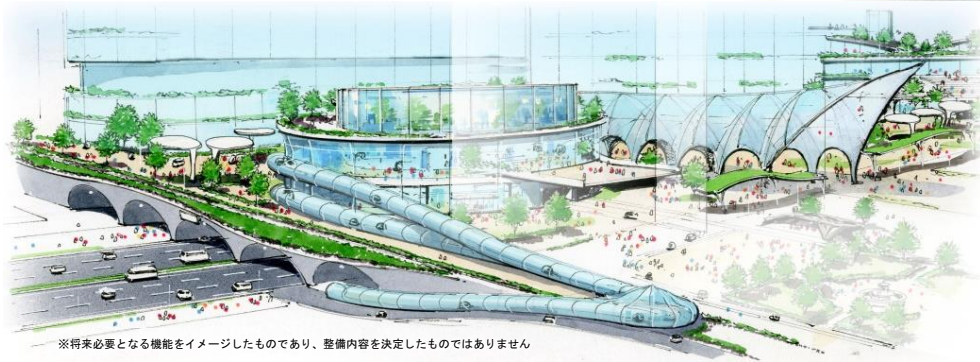
- 新駅方面への人・モビリティの往来が可能となるよう十分な通行空間を確保

◆常に時代最先端のシステムへ進化◆

常に最先端の車両・技術・システムが体感できる、次世代型交通ターミナルを目指します

- 「道路の施設」は、これまでも時代のニーズに合わせて進化してきました。
- 品川駅周辺施設も今後、社会的ニーズの変化や技術開発の動向に合わせて進化することを目指します。
- 世界に向け情報を発信し続ける品川、新しい東京のカタチを創造し続けます。

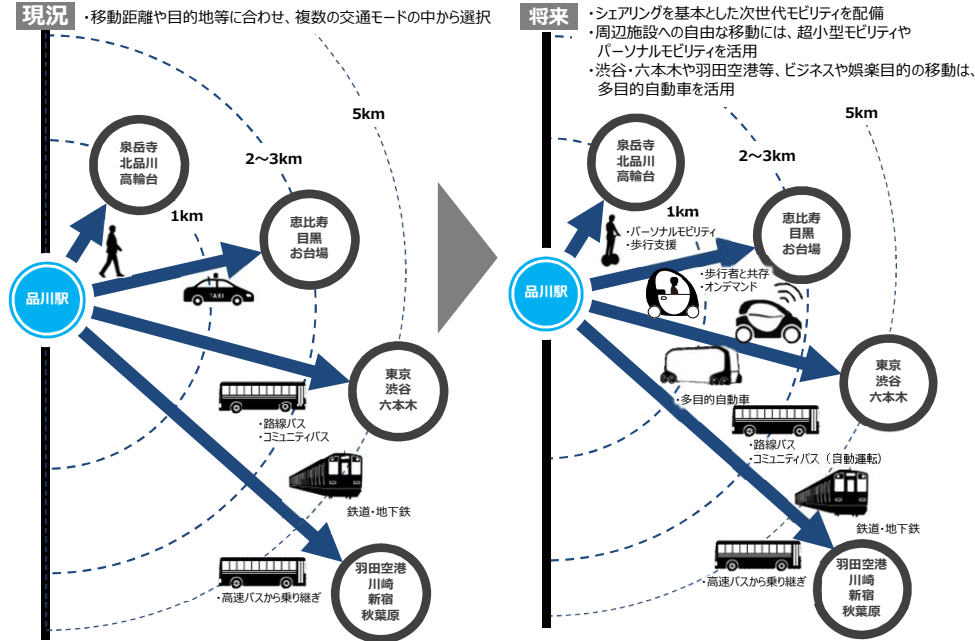
世界をリードする
新たな次世代型交通ターミナル



※将来必要となる機能をイメージしたものであり、整備内容を決定したものではありません

◆広域的な交通ネットワーク◆

既存のモビリティを次世代モビリティで補完・代替することで、リニア、羽田空港、臨海部、都心部間のアクセスを強化します

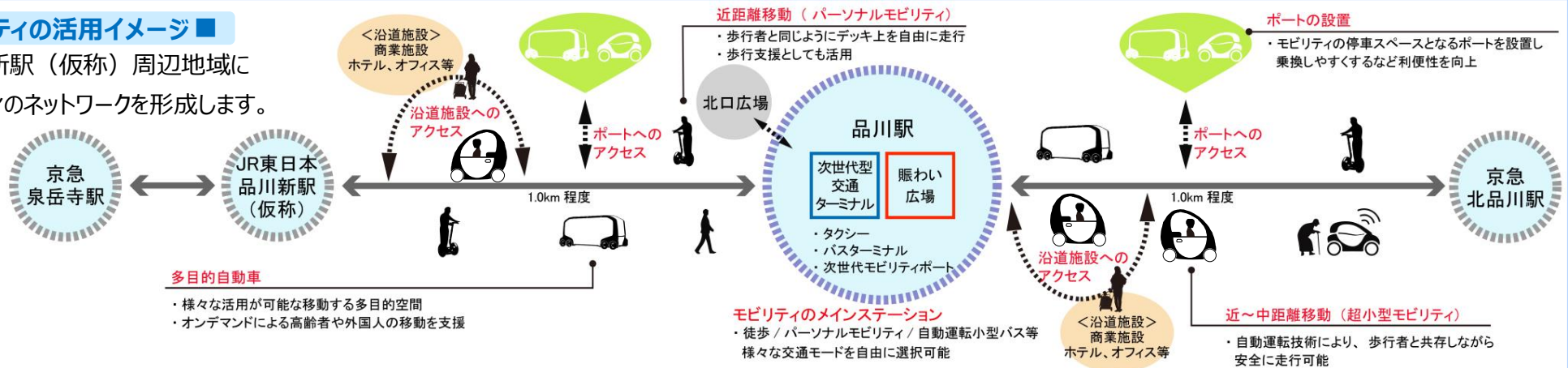


◆周辺とのネットワーク◆

品川駅と周辺地域を結ぶ次世代モビリティを使ったネットワークをデッキ上等を活用して形成します

■次世代モビリティの活用イメージ■

- 品川駅と品川新駅(仮称)周辺地域に次世代モビリティのネットワークを形成します。



国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針 (H29.2.3 国土交通省、東京都)

ポテンシャル

- 羽田空港との高いアクセス性
- リニア中央新幹線の整備
- MICE・宿泊施設等の機能集積
- 再開発による新たなまちづくりの進展



提供: JR東海



出典: 国土地理院ホームページ 電子国土web地理院地図(2007年~)

課題

- 駅・街の低い連絡性
- 鉄道・バス等の乗り場の分散
- 駅前広場や歩行者の空間不足
- 国道15号の交通の輻輳



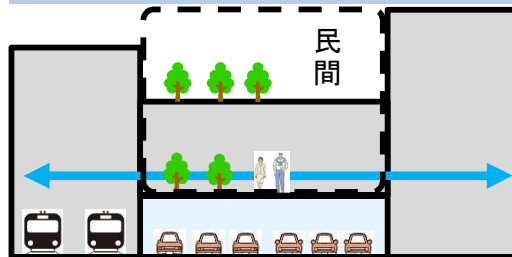
広域交通機能・国際交流機能の強化

道路上空を活用し、日本の顔となる『世界の人々が集い交わる 未来型の駅前空間』を創造

これまでの分断された空間



道・駅・街が一体の空間へ



立体道路制度を活用

■道路上空を活用した整備方針のイメージ図



※上記は、道路上空を活用したイメージ図であり、具体的な整備の方向性については、今後、関係者との検討を踏まえ、決定していきます。

① 直結通路、アトリウム広場

- ⇒ 歩行者と車の空間を分離
- ⇒ 駅と街の回遊性を向上

② 交通ターミナル

- ⇒ バス、タクシー乗り場を集約
- ⇒ 国内外旅行者に観光情報の発信

③ 民間商業施設

- ⇒ にぎわい空間を創出

民間からの提案を踏まえた
官民連携事業で実現